地域密着の活動こそ、一人一人が育って行くのでは…(6/4)

地域が育つとは、地域の方々の心に響いてこそ

先日、午前は仙台市内で開催された「とっておきの音楽祭　2007」、午後は高速で1時間ほどの地方都市での「ミニコンサート(2年前にも顔を出しましたが、そのことは、「雑学BN」の随想等関係(Ⅲ)P、2005.6.12.「とってもアットホームなミニコン」:参照)」と、梯子した。

「とっておきの音楽祭」は、223団体・個人、約1600人の障害児・者と賛助の方々が市内中心部24ヶ所の会場に別れての開催。
一方、「ミニコン」は、地域の小学校体育館を借りて地域の方々を対象に、障害児・者と地域の賛助の数グループが手作りで開催。

奇しくも同じに日に、同じ目的と思われる企画に参加し、ついつい考えさせられた。
「地域とは場所でなく、人の繋がり」ということからすれば、一般市民という不特定多数を対象のお祭り的な「とっておき」より、「ミニコン」の方が地域に足が着いた活動のように思えた。

この地方都市の近くの町に住むメル友へ、「ミニコン」の情報を提供していたが、小、中学生のお子さんも連れて来てくれていた。
そのメル友から、後日、次のようなメールをいただいた。
【　本やテレビなどで知識はありましたが、私の知識なんかウスッペラに感じました。
空気を伝わって、色々な思いが響いてきました。
参加して良かったな～と、途中、子どもたちは飽きてしまったようですが、遊んだあと、会場にきて最後まで参加してくれました。
最後の挨拶の時には、思わず涙が出てきて、それを見た子どもが私の涙を拭いてくれました。私の顔を覗きこみ、何も言わずふいてくれました。
なんとも言えない清らかな純粋なものを感じ、心が温かくなりました。
あべさん、情報ありがとう御座いました。 】

また、他のメル友へ「ミニコン」へも顔を出したことを伝えたところ、
【　(「ミニコン」へも)顔を出すところが、阿部さんのすごいところです。 】
と、返信をいただいた。
少数派の問題にこそ物事の本質が見えるような気がして、どうしても少数派の方に目が行く自分です。

追伸:上の写真は「ミニコン」、左の写真は「とっておきの音楽祭」。

- 「雑学BN」
- 「雑学・フォトアルバム」
- 「TV番組等紹介欄」